

鳥取県公立学校の教員としての資質の向上に関する指標【教諭等】

令和6年4月1日 鳥取県教育委員会

職 ステージ 指針における5つの柱 観点 キーワード	キャリア スタート期 (教員養成 完成時・ 採用時)	育成期(第1ステージ) (1~5年目) 教員としての必要な基礎的素 養・指導技術を広く習得し、実践 的指導力を身に付けるとともに、 学校組織の一員としての自覚を 高める。	向上期(第2ステージ) (6~10年目) 第1ステージの経験をもとに、 学習指導や学級経営の専門的知識・ 技能を習得するとともに、得 意分野の開発と実践的指導力の 向上及び視野の拡大を図る。	充実期(第3ステージ) (11年目以降) 第2ステージの経験をもとに、職務に関する専門性をよりいっそう 高め、広い視点から学校運営に積極的に参画するとともに、指導 的立場としての力量及び管理的立場としての力量(マネジメント能 力)を高める。
				充実期前期 (11~15年目)

教職に必要な素養に主として関するもの

素 養	豊かな人間性、創造力、寛容性、人権意識	よりよい社会の実現に向け、自他の価値を尊重し、自らの人間性や創造性を高めることができる。
	前向きな姿勢、向上心、適応力	学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、学び続けることができる。
	教育的愛情、児童生徒理解、判断力	児童生徒に対する理解を深め、自発的・主体的な成長や発達を支援することができる。
	専門的知識・技能、指導力、構想力	教科等の専門的知識・技能を有し、児童生徒の主体的な学びを支援することができる。
	社会性、協調性、コミュニケーション力	学校組織の一員として、学校内の多様な人材、家庭や地域等と連携・協働を図ることができる。
	使命感、責任感、倫理観	教育公務員としての倫理観及び法令遵守の精神に基づき、責任ある言動をとることができる。
学校運営・ 教職員連携	学校安全への対応 ・危機管理	・学校教育の社会的・制度的・法律的・経営的理解に関する基礎理論・知識を習得している。 ・危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるための適切な対応や危機の未然防止に努めている。
	家庭・地域とつながる力 ・学校、家庭、地域との連携・協働	・地域社会に貢献することについて、自分なりの考えを持ち、実行しようとしている。 ・家庭・地域と連携・協働し、児童生徒と共に育んでいこうとする関係を築いている。
	組織として連携・協働する力(同僚、関係機関、異校種) ・目標 ・業務改善 ・ICT等による業務の効率化 ・事務 ・外部 ・チームマネジメント ・協働的教職員集団づくり	・集団で業務を遂行する際、自らの役割に応じて適切に行動し、力を発揮している。 ・管理職や同僚の指導・助言を受けながら、組織の中における自らの役割や責任を自覚するとともに、その一員としての業務を遂行している。 ・同僚と協働しながら適切に業務を遂行するとともに、関係機関・異校種との連携を適切に行っている。 ・学年や教科等の組織から学校全体を広く見渡す視点に立って、自校の特色について把握し、その特色を生かした実践を行っている。 ・学校課題の解決に向けて、関係機関・異校種との連携を計画しつつ積極的に行い、組織力を向上させている。 ・組織全体について、自己の経験を生かしながら内外の環境要因を広く見渡し、その特色を生かした「チーム学校」(効果的・効率的な組織)としての教育活動を展開している。 ・働き方改革の目的を理解し、ICTの効果的な活用等による業務の効率化を進めている。 ・各期(ステージ)において、学校教育目標の達成に向けて管理職及び同僚と協働しながら取り組むとともに、取組の継承や後継者育成を意識しながら業務を遂行している。

学習指導に主として関するもの

学 習 指 導 (授 業 力)	各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実施 ・年間指導計画 ・単元構想 ・学習指導案	・教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得している。 ・「学習指導要領」の趣旨・内容を理解し、担当教科・領域の年間指導計画を作成するとともに、児童生徒の実態を把握し、その実態に応じた単元構想や教材づくりに取り組んでいる。
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・学習集団 ・指導評価 ・指導工夫 ・授業改善 ・主体的、対話的で深い学び	・課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業を実践している。 ・「学習指導要領」の趣旨・内容を理解し、学年や教科の系統性を踏まえた年間指導計画の工夫・改善を行うとともに、児童生徒の実態や学校、地域の特色を生かした単元構想や教材開発に取り組み、専門性の向上を図っている。 ・課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業を実践することで、これからの時代に求められる資質・能力の育成を図っている。

生徒指導に主として関するもの

児 童 生 徒 理 解 ・ 指 導	児童生徒の理解と学級経営 ・児童生徒との関わり ・集団づくり	・学習集団形成に関する基礎理論・知識を習得している。 ・学級経営の具体的な方策を立案し、実行している。
	教育相談、生徒指導及びいじめ・不登校対策 ・個への対応 ・コミュニケーション能力	・生徒指導、教育相談に関する基礎理論・知識を習得している。 ・教育相談や生徒指導を適切に行う上で必要な理論や技法について理解するとともに、児童生徒の特性や人間関係、家庭環境等を把握し、それらを考慮した指導・支援を行っている。 ・いじめ・不登校等の課題に対して、関係教職員への報告・連絡・相談を密にして、解決に向けて対応している。
	キャリア教育(生き方・進路指導) ・生き方指導	・キャリア教育(生き方・進路指導)に必要な知識を活用し、児童生徒に将来の夢や希望を持たせる指導を行うとともに、地域や故郷への愛着を育む指導を行っている。 ・児童生徒の実態や学校(学科)の特色、地域の実情など様々な視点から現状を把握するとともに、児童生徒に、卒業時点で「何ができて、何をさせたいか」を具体的に定めている。 ・学年全体の児童生徒一人一人の特性や人間関係、家庭環境などを多面的に捉え、個に応じた適切な指導・支援を行っている。 ・同僚の生徒指導上の悩みを理解し、課題の解決に向けて指導・助言を行っている。 ・いじめ・不登校等の課題について、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携し、課題の解決に向けて組織的に対応している。

特別な配慮や支援を必要とする子供への対応に主として関するもの ※「学習指導」「生徒指導」を個別最適に行うものとして位置づけ

学 習 指 導	特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応 ・特別支援教育の視点	・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の特性を理解し、支援に必要な基礎的知識を習得している。 ・児童生徒の実態把握に基づいた「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、一人一人の教育的ニーズに応じた学習上・生活上の支援の工夫を行っている。 ・保護者や関係機関と連携しながら、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・活用や、学習上・生活上の支援の工夫を行っている。
------------------	--	--

ICTや情報・教育データの利活用に主として関するもの ※「学習指導」「生徒指導」「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」をより効果的に行うための手段として位置づけ

学 習 指 導	ICTや情報・教育データの利活用 ・ICTの授業・校務等への活用 ・情報・教育データの活用	・ICT活用の意義を理解し、ICTを授業や校務等に積極的に活用している。 ・ICT活用の意義を理解し、ICTを授業や校務等に効果的に活用している。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、児童生徒の学習の改善を図るため、教育データを効果的に活用している。 ・他の教職員にICTや教育データの効果的な活用方法を助言している。
------------------	---	--

※ 必要に応じて、「児童生徒」は「幼児児童生徒」と読み替える。